

## 【報告】

4月3日(日)夕方~4月6日(水)深夜まで、京都教区震災対策室の先遣隊として藤原司祭と東北教区に行きました。

タウンエースに大根、玉葱、人参、ジャガイモ計500キロを積み3日の夕方に京都を発ち名古屋学生センターへ。神戸教区の上原司祭、林司祭と合流。

翌朝、上原・藤原組が野菜を積んだ京都号で小名浜聖テモテ教会を目指し、林・出口組がガソリン、プロパンガス、カセットボンベを積んだ神戸号(ステップワゴン)で郡山聖ペテロ聖パウロ教会へ。途中、神戸号は現地からの要請を受け埼玉でホームセンターをめぐり土のう袋を大量購入、石巻の被災した学校の清掃に必要とのことでした。

夕方に郡山聖ペテロ聖パウロ教会着、燃料等の物資を下ろし、東京から来た2トンの支援物資を越山哲也司祭、イ・チャンヒ司祭、幼稚園の先生方と共に教会のホールに積み降ろしました。

仙台基督教会の礼拝堂が物資の集積所となっていましたが、震災の影響で建物が使用できなくなり、郡山の教会が集積所となるようです。

夜に仙台着、青葉静修館(リトリート施設)にて神戸教区先遣隊とともに宿泊。翌日は、林司祭と杉野神学生(神戸)とともに支援物資を積んで岩手へ。初めは釜石神愛教会へ。幼稚園保育が通常通りされており、園長先生にお話を伺うと、園児、職員無事で、園舎も大きな損壊はないとのこと。チャンセル部分は扉で仕切られ、会集席は幼稚園のホールとして使われているタイプの教会ですが、チャンセル部分の部屋には大量の物資が詰まされており、午後から2トンのオムツなどが届くとのこと。恐らくホールの一部も置き場となるのではと想像します。北海道教区の聖職が今後釜石の牧師館に定住され、支援にあたられるとのこと。しかし、郡山でもそうでしたが、物資の搬入作業等で幼稚園の先生方の負担が気になります。

釜石港に行き、津波の恐ろしさ、町が全て飲み込まれた状況を見ました。漁港より少し高い位置にある駅前には、観光客用のとれとれ市場(のような施設)がありましたが、客はおらず、置かれている商品も、加工品(一夜干しや、味噌漬け)がほとんどで、店舗も半分ほどが閉店していました。

そのまま海沿いの道路を南下し、大船渡へ。聖公会の教会はないのですが、日本基督教団の教会があり、支援物資を礼拝堂にならべ近隣の避難所からたくさんの方が取りに来られていました。牧師さんと会い、ガソリンの携行缶を渡しました。岩手県の教団教会も、宮古、釜石は被災され復興の見込みは立っていないとのことで、唯一地域の復興支援活動をしている大船渡教会には、教団の牧師さんがたくさん来られていました。教団でも、物は全国から来るが、必要な人に手渡すまでの手段が出来ていないというのが現状のようです。

最後に陸前高田市に行き、全てが津波にさらわれた町を見ました。映画やドラマのセットのように見え、現実の出来事として認識することがとても難しい状況でした。

夜に藤原司祭と合流。青葉静修館にもう1泊し、翌朝に京都号で仙台を発ち、仙台空港に寄りました。途中、消防庁のレスキュー隊のオレンジの制服や、救急隊の薄水色の制服の人達が瓦礫の中を捜索していました。あまりにも被害範囲が広すぎ、遺体の捜索が出来ていない地域がまだまだたくさんあるそうです。

途中で水戸聖ステパノ教会を訪問し、損壊した礼拝堂内部や外観(鐘楼が崩れた)を斎藤英樹司祭に見せていただき、6日の深夜に帰京しました。

## 【感想】

聖公会の教会が最前線となって物資の供給をするには、マンパワーが不足しております。物は全国から集まりますが、搬入、仕分けをする人、各地のニーズを把握し、物資の割り振りをする人、物資を届ける人が足りません。東北教区の教役者の方々も、少ない人数で大変なお働きをされておりますが、ご自身も被災されており限界があります。また、現在の活動では、幼稚園等の施設の職員や保育現場に大きな負担が強いられます。

物資に関しては、教会を通さずに、各市町村が発信している物資募集などに直接送る方が良いと思います。避難所では物資が足りているわけではありません。今後は季節や状況が変わるたびに、新しいニーズが出てきます。

東北教区に送られている物資も、被災された信徒さんへの物資を除いては多くが公的な避難所に運ばれます。輸送の手間、ニーズへの迅速なレスポンスを考えれば、東北教区を中継する意味が余りありません。また、北関東や横浜まで甚大な被害が及んでおり、地理的に離れている京都から出来る支援を、もう少し長い目で見極める必要があると思います。

\*\*\*\*\*

出口崇執事の報告に追加をして報告します。

藤原は、4～5日、神戸教区の上原司祭と共に小名浜聖テモテ教会を訪問しました。

4日夕方、小名浜着。持参した野菜を降ろし、現地を視察しました。やはり大変な被害です。越山司祭ご夫妻とボランティアの方々（神戸教区の前田司祭、日本基督教団の牧師さん夫妻、カトリック教会の神父さん、越山司祭のご友人など）からお話を伺いました。こちらは放射能の心配が深刻でした。

5日、中部教区の前田普さんと横浜教区の前田仁司祭と共に被災地の視察。平聖ミカエル教会（会衆）訪問。避難所を訪問しました。午後、仙台に向けて出発し、出口執事たちと合流しました。

7日（金）午後から、自動車を東京まで届けに行きました。釜石の教会・幼稚園で、北海道教区の教役者・信徒の方が支援活動を行っておられます。そのために自動車が必要で問い合わせがありました。丁度、上野聖ヨハネ教会の信徒の方が4駆の軽自動車を貸しても良いとのお申し出がありました。お願いしますと、約1ヶ月残っていた車検を繰り上げてくださり、「何ヶ月でも、一年でも使ってください」とおっしゃってください、7日の午前中に自ら運転して教務所まで持ってきてくださいました。

私と黒田司祭で、その車を届けに仙台まで運転するつもりだったのですが、前日深夜の大きな余震のため、交通機関が混乱したため、北海道教区の大町司祭と相談の上、東京まで運ぶことになりました。

7日深夜、東京の聖公会神学院に到着しました。8日朝より、校長の広谷司祭と北海道教区の永谷神学生が東北に向けて運転してくださいました。

12日に管区で各教区の震災対策担当者が集まる第2回の会議があります。そこで今後の活動が検討されます。又ご報告します。

対策室長 司祭 藤原 健久